

令和3年度

1学期学校評価(職員)

【評価:とてもよい4 よい3 もう少し2 改善を要す1】

観点	評価項目	自己評価		○成果 ●課題	改善策(自己評価2、5未満)
		項目	総合		
I 信頼される開かれた学校教育の推進	1 学校経営方針(グランドデザイン)や課題を理解し、共通実践がなされている。	3.2	2.6	●正しい清掃の仕方を身に付けさせる必要がある。 ○行事が終了したら、係が反省用紙を配布し成果と課題をまとめ、次年度へ向けての修正を行う流れができつつある。 ○職員の数も少なくなり、一人一人が担当する業務も増えているのが現状であるが、相互で協力し合って運営を進めた。 ●業務改善については、少しずつ改善を進めているもののなかなか実感できていない状況である。	◇時間をとって清掃の意義・手順を再度指導し、自分たちで考えながら10分間取り組めるようにする。 ◇業務改善については、他校の実践なども参考に行っていくとともに、小さなことから一人一人の改善を進めていく。
	2 一学校一改革「汗をかき、心を磨く清掃活動」の実践がなされている ・場所に応じた掃除の道具と方法 ・使う人の身に立った掃除(気付き 考え 行動する) ・自省を促し感謝を育む時間	2.4			
	3 校務分掌組織をもとに「報告・連絡・相談」を確実にし、連携・協力し計画的に校務を進めている。	2.6			
	4 諸行事等の反省・評価が適切になされている。	2.6			
	5 業務改善に向け、学校全体として1アクション、教職員一人一人の1トライに取り組んでいる。	2			
	6 学級PTA、PTA専門部活動及び学校保健委員会、家庭教育学級等、保護者と協力・連携して進めている。	2.6	2.7	○コロナ渦での運営の難しさがあるが、担当職員と保護者役員が連絡をよく取り合って進められた。 ○一学期は、チョイのチョイ踊り、米作りに協力いただき充実した。	
	7 「学校支援ボランティアの活用」や「まちづくり協議会との連携」を通じた地域の特性を生かした活動がなされている。	2.8			
	8 校内研修や個人研修、研修会参加等を通して指導力の向上がなされている。	2.6	2.7	○本校の課題に関わる校内研修に心がけた。 ○機をとらえた服務指導を実施し、教育公務員としてあるべき姿について考える機会を設けた。 ○定期健診の実施、各種調査、相談窓口の設定などを通して、職員の心身の健康保持に努めた。	
	9 つねに常に教育公務員であることを自覚して信頼される行動を心がけている。(飲酒運転の禁止・交通安全・情報管理・金品管理等)	2.6			
	適正な勤務時間、健康診断の受診等、心身の健康を意識し自己の健康管理がなされている。	2.8			
II 確かな学力をもち個性あふれる子供の育成	基礎的・基本的事項の確実な定着を図っている。(単元テスト80%以上、めあてとまとめの板書、小テスト)	2.3	2.4	●定着に個人差があり、全体的な定着につながっていない。 ●家庭学習については、保護者の評価も低い。	◇小テストや反復練習、個別指導の時間を確保し、一人一人の学力向上を図っていく。 ◇学年部ごとに作成した「家庭学習の仕方」を教師・保護者ともに再確認し、発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図っていく。(10分×学年+20分)
	家庭学習の方法について具体的に指導し、継続して取り組ませている。(10分×学年+20分)	2.5			
	校内研修と関連させ、学年に応じた学習のしつけやガイド学習定着の指導がなされている。	2	2.4	●子供たちが主体的に課題を追求し協働解決していくようなガイド学習はまだ身に付いていない。 ○GIGAスクール構想が始まり、3年生以上は一人一台タブレットを授業で活用する場面が増えた。 ●教師のICT指導力を高める必要がある。 ●個に応じた支援にあり方について研修を行い指導に生かすようにしたがまだ不十分である。	◇複式学習における学習の進め方を共通実践し、発達段階を踏まえたガイド学習の仕方を身に付けさせる。 ◇教師のICT活用力を向上させる研修を2学期複数回行い、授業における積極的な活用を行う。臨時休業時に子供が家庭で端末を使って学習に参加できる環境を整える。 ◇個に応じた支援について、具体的事例をもとに研修・実践を行い、その成果と課題を共有していきながらよりよい支援に努める。
	個別の指導計画等をもとに、一人一人の児童の実態に応じた指導・支援がなされている。	2.4			
	ICTを積極的・効果的に活用し、わかる授業づくりを実践している。	2.5			
	言語活動(読書・音読・表現の場)を充実させ、表現力の育成のための指導がなされている。	2.5			
III 道徳心の社会性を養い心身共にたくましい子供の育成	「考え、議論する」道徳の授業実践や評価の工夫がなされている。	2.5	2.6	●ボランティアの時間を金曜日に位置付けているが、自主的な奉仕活動の取り組みはまだ不十分である。 ○校内読書祭り等の読書イベントや日常的な読書指導を通して読書に親しむ子供が多かった。	◇道徳の実践力を身に付けさせるために、授業で学んだことと日常生活の場面を具体的に結びつけて、自分を振り返らせたり、めあてを立てさせたりする。
	生活の場で、道徳の実践力の育成や豊かな感性の育成がなされている。(ボランティア活動、人との触れ合い、清掃・奉仕活動など)	2.4			
	個に応じた読書量を確保するために、具体的な手立てを講じている。	2.8			
	仲良し体育、教科体育を通して体力・運動能力の向上がはかられている。(「一校一運動」なわとび、「ちょとレ運動」)	2.3	2.6	●一学期は全校体育の機会が少なく体力・運動能力向上についての共通理解が足りなかった。 ○元気アップ週間を設定し、基本的健康習慣(主にメディアの使い方や睡眠時間確保)の定着を目指して取り組んでいるが、個人差が大きい。	◇2学期前半は、運動会の練習を通して、体力の向上を図る。後半は、仲良し体育ではなわとび、教科体育では準備運動の中に継続した運動を取り入れ、体力・運動能力の向上を図る。
	月目標や健康診断結果をもとに、基本的健康習慣の定着がなされている。(早寝・早起き・朝ご飯、う歯治療率100%)	2.8			
	生徒指導の充実	全職員が全校的な視野に立って、生徒指導上の諸課題について共通理解・共通実践がなされている。	2.6	2.6	○月に一度「心の教育推進委員会」を設定し、気になる子供の共通理解に努めたり、職員研修で子供の特性について学びを深めたりしたことを、日常の指導に生かした。 ●日常的な生活指導について、学年間での共通理解・実践ができているものでできていないものがあった。 ○教育相談を1学期に2回実施し、子供一人一人の現状把握・情報交換に努めた。
一時徹底事項の指導と見届けがなされている。(挨拶、履物、廊下歩行、言葉づかい)		2.4			
子ども一人一人の基本的な生活習慣の確立のための指導がなされている。(生活のきまり、月目標)		2.6			
よりより人間関係づくりのために、いじめ問題を考える週間、ニコニコ月間等で手立てを講じている。		2.8			
教育相談を計画的・意図的に実施し、保護者との連携・協力がなされている。	2.8				